

## 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

### 第 407 回 変化を拒む「いちず型社員」を変える方法

2011.3.6

前回のコラムで、まるで宇宙人のような「むかん族」型の問題社員の話をした。実はもう一つ、ややこしいタイプの問題社員がいる。自分が「よし」と決め付けたやり方に固執し、人の忠告をインプットとしない、自分の経験だけを信じ、深く、強く思い込むタイプである。

例えば...客先へいく道順も決まっている。新しい道ができた...、信号を何回通るか...、したがってこう行けば何分短縮できる...そんなことお構いなし、自分で決めた道を目指し突っ走ってしまう。新しいパソコンは、こんな便利な機能になったにも拘らず、今まで通りのやり方で通す。ちょっと工夫すれば、今までのいくつものプロセスを省略できるはずなのに、最初からインプットしないから、相変わらずいくつもの工程を延々とやり通す人。新しい改革、改善、変化への対応...こんな言葉の意味は大事だと思うけど、こと、自身の問題となると別世界、ずーっと慣れきった、今まで通りをやり抜く人、こんなタイプの人間が、きっと、あなたの周辺にいるはずである。

この人は、言ってみれば「いちず型社員」とでも言うべきか、中々頑固で、固まっているタイプだ。思い込んだら、ただ只管（ひたすら）真っ直ぐに、誰の忠告も聞こえないほど一途（いちず）になってしまう。工夫したり、見直したり、代替案を導入したり...こんなことが体質的にできないタイプである。本人、悪気はないのだろうが、やはりKY型、周りの空気が読めないし、読もうともしてない。言われた事はなんとかこなすが、自分のやり方に頑固なまでに固執する。いわゆる融通がきかないタイプである。

この連中が「変化」を阻害する。概して人に厳しく、自分に甘い。変化を目指すにはチャレンジしなければならないはず、変えるための努力を繰り返さなければできない。「いちず型社員」は、自分にだけは甘いから、そんな苦悩はしたくない。だから変えようとしらない、変化を拒むのである。

こうした「いちず型社員」は、先天的な性格に根ざすものが多いが、実は幹部や上司が、本人の欠陥と決め付けて、十分な教育訓練をしない場合も多いのだ。

それでは、「いちず型社員」をどうすれば変身させる事が出来るか？まずルーチンワークを担当させる。これは「むかん族社員」とは正反対だ。多くの作業を正確に迅速にこなす事を、覚えさせる事だ。今までと違う色々な体験を、何が何でも実践させる。今までのやり方がいかに非効率で、コストがかかり、無駄・ムラの温床だったかを、体で覚えさせることだと思う。嫌でも何でも、繰り返し体験させ、今までの自分自身を根底から「自己破壊」させることだ。「いちず型社員」は概して、ヘボプライドが高いので、これ位の荒治療しないとダメかもしれない。それで向かってくれば、本物のプロが見えてくる・・・。